

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	床上浸水対策特別緊急事業				
地区名	鹿乗川				
事業箇所	岡崎市、安城市				
事業のあらまし	<p>鹿乗川は、岡崎市北野町地先の水田地帯に発し、矢作川右岸低地を南流し、途中安城台地を流下してきた右支川西鹿乗川を合流させ、矢作川沿いの国管理の鹿乗川を經由・南下して、矢作川 7km 地点に合流する流域面積約 45km²、流路延長約 16km の一級河川です。近年、流域内の市街化が進んでおり、今後も進行することが予想されます。</p> <p>平成 12 年の東海豪雨では床上浸水 56 戸の被害が発生しました。また、平成 20 年 8 月末豪雨では床上浸水 22 戸の被害を受けるなど浸水被害が増大しています。</p> <p>このため、鹿乗川において、河道拡幅、橋梁改築等を行い、床上浸水被害の解消を図ります。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>平成 20 年 8 月末豪雨と同規模の降雨（時間雨量 146.5mm(既往最大)）に対して床上浸水被害の解消を目標とします。</p>				
計画変更の推移		事業採択時	再評価時	変動要因の分析	
	事業期間	H21～H25（予定）	H21～H26（予定）	用地交渉に期間を要したため	
	事業費（億円）	58.0 億円	50.03 億円	事業内容変更のため	
	経費内訳	工事費	49.9 億円	38.23 億円	事業内容変更のため
		用補費	8.1 億円	11.80 億円	事業内容変更のため
		その他	—	—	—
事業内容	上流区間 河道拡幅 J R 部横断 BOX 1 基 橋梁 5 橋 下流区間 河道拡幅 橋梁 2 橋 湛水防除水路移設 パイプライン移設	上流区間 河道拡幅 橋梁 3 橋 下流区間 河道拡幅 橋梁 2 橋 湛水防除水路移設 パイプライン移設	J R、岡崎市との協議による		

II 評価

1) 必要性
の
変
化

【床上事業採択時の状況】

- ・鹿乗川流域では、近年、頻繁に浸水被害が発生しています。平成12年9月11日から12日の台風14号がもたらした東海豪雨は、総雨量295mmを記録し、溢水氾濫などにより広範囲で浸水被害が発生しました。
- ・また、平成20年8月28日から30日の豪雨では、総雨量447.5mmを記録し、溢水氾濫などにより広範囲で浸水被害が発生し、早急な改修を実施する必要がありました。

表1 主な浸水実績一覧表

No	発生日月		異常気象名	降雨量(mm)					水害区域面積 (ha)	浸水戸数(戸)			一般資産被害額 (百万円)
				1時間	3時間	24時間	総雨量			床上	床下	計	
1	S46(1971)	8/27~9/13	台風第23、25、26号及び秋雨前線豪雨	62.0	128.0	343.5	393.5	8/30~8/31	3,963.6	1,320	4,569	5,889	1,373
2	S51(1976)	5/19~7/21	豪雨と台風9号	17.0	35.0	126.0	126.0	5/25	0.5	0	17	17	7
3	S57(1982)	7/5~8/3	豪雨、落雷、風浪と台風第10号	34.0	62.0	172.0	182.0	8/2~8/3	12.5	0	2	2	7
4	H3(1991)	9/11~9/28	台風17号、18号、19号	45.0	84.0	163.0	183.0	9/13~9/14	3.3	1	28	29	115
5	H6(1994)	9/11~9/22	台風21号、24号及び前線	42.0	98.0	141.0	212.0	9/16~9/18	1.7	0	14	14	147
6	H9(1997)	9/12~9/17	豪雨及び台風第19号	34.0	65.0	147.0	154.0	9/14~9/16	270.5	7	114	121	77
7	H11(1999)	6/22~7/4	梅雨前線豪雨	25.0	46.0	125.0	125.0	6/29~6/30	256.1	15	19	34	94
8	H12(2000)	9/8~9/18	豪雨及び台風14号(東海豪雨)	55.0	124.0	247.0	295.0	9/11~9/12	436.3	163	603	766	1,786
9	H13(2001)	8/19~8/23	台風11号及び豪雨	24.0	58.0	254.0	255.0	8/21~8/22	457.7	0	20	20	10
10	H16(2004)	10/8~10/12	台風22号及び豪雨	24.0	63.0	208.0	226.0	10/8~10/10	24.0	0	49	49	33
11	H20(2008)	8/28~8/30	8月末豪雨	146.5	240.0	302.5	447.5	8/28~8/30	138.1	22	664	686	

① 事業の
必要性の
変化

【再評価時の状況】

- ・平成20年8月末豪雨以降、大きな浸水被害は発生していませんが、沿川農地などにおいて湛水被害が発生しています。事業実施により浸水の危険性は事業採択時より減少していますが、事業未実施区間の浸水の危険性は事業採択時と大きく変化していないと考えられます。

【変動要因の分析】

- ・鹿乗川流域のある岡崎市・安城市の人口・世帯数は、平成21年の事業着手時に比べ微増となっており、事業実施の必要性は、事業着手時と同様に高い状況にあります。

判定

B

- A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。
- B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。
- C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。

【理由】

- ・浸水の危険性は事業採択時から大きく変化していないと考えられます。

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	備考
工種 区分	【上流区間】							
	用地補償	←→						
	工事							
	・護岸工			←→			→	
	・橋梁工		←→				→	
	【下流区間】							
	用地補償	←→						
	工事							
	・護岸工		←→				→	
	・橋梁工	←→				→		
	・パイプライン	←→		←→				
	・湛水防除		←→		←→			
事業費 (億円)	計画	37.59			12.44			
	実績	37.59						

※事業費について、過去については5カ年毎の計画と実績、今後5カ年分の事業費と、それ以降の残事業費を記載。

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	進捗率(%) 【②÷③】
延長 (km)	1.06	1.06	100.0	1.80	58.9
事業費 (億円)	37.59	37.59	100.0	50.03	75.1
工事費	28.53	28.53	100.0	38.23	74.6
用補費	9.06	9.06	100.0	11.80	76.8
その他	—	—	—	—	—

【施工済みの内容】

下流区間

- ・護岸工 L=660m
- ・橋梁 2 橋
- ・湛水防除水路移設
- ・パイプライン移設

上流区間

- ・護岸工 L=400m
- ・橋梁 2 橋

②事業の進捗状況及び見込

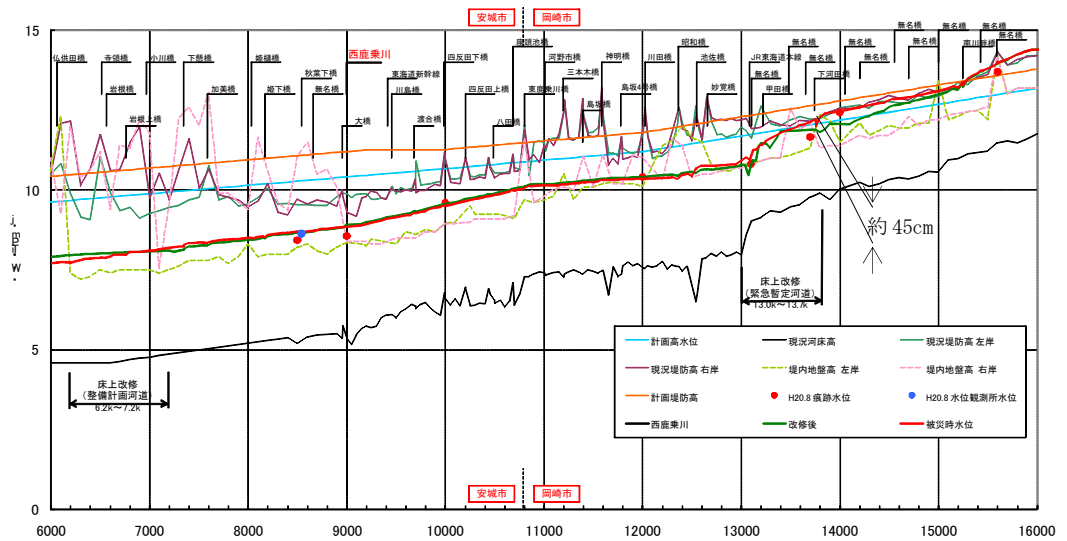
②事業の進捗状況及び見込み

1) 進捗状況

【事後評価に準ずるフォローアップ】

■水位低減効果

・鹿乗川では、床上事業の実施により、床上浸水が生じた箇所において約 45cm の水位低減効果がみられます。



2) 未着手又は長期化の理由

・用地交渉に時間を要したため、事業期間が平成 26 年度まで延伸となりました。

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

・特になし

【今後の見込み】

・事業進捗は概ね順調であり、計画通り平成 26 年度に完了する見込みです。

判定

A

A : 事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。
 B : 多少の阻害要因があるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
 C : 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化

【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】
 ・特になし。
 【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】
 ・本事業の全体事業に対する費用便益比は2.21 (>1)であり、事業効果が期待できます。

表2 費用便益分析表

区分		事業採択時 (基準年:H21)	再評価時 (変更なし)
費用 (億円)	事業費(建設費)	38.75	53.83
	維持管理費	4.40	6.13
	合計(C)	43.15	59.96
効果 (億円)	一般資産被害額	92.26	47.40
	農作物被害額	1.06	0.22
	公共土木施設等被害額	159.49	80.29
	間接被害額	12.64	3.74
	残存価値	1.45	1.45
	合計(B)	266.90	132.73
費用対効果分析結果(B/C)		6.2	2.21

※費用対効果分析については、原則として、事前評価時（前回評価時）と比べ、その要因が3割を越えて変化している場合、または費用対効果分析結果が1未満になる恐れがある場合に実施するものとします。

【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】
 ・治水経済調査マニュアル（案）（国土交通省河川局 H17.4）
 河川事業は、主に豪雨等による洪水あるいは台風時の高潮等による被害軽減、および防止を目的とした事業であり、河川改修等を実施することで解消軽減できる被害額を便益とし、それに要する費用とを比較して求めている。事業採択にあたっては、その値が1以上を要件としています。
 【変動要因の分析】
 ・鹿乗川では、事業採択時には、事業の緊急性から簡易な手法で費用対効果を算定していました。今回、条件の精査や氾濫解析の実施を行った結果、費用対効果が変化しました。

2) 貨幣価値化困難な効果の変化

【整備計画策定時の状況】
 ・特になし。
 【再評価時の状況】
 ・特になし。
 【変動要因の分析】
 ・特になし。

判定

A

A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。
 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。
 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。

【理由】

・被害額に大きな変動がないため、事業着手時と同様な事業効果が発現される見通しです。

III 対応方針（案）	
継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容	
<p>■対象（事業完了後 年目） □ 対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>・本事業は想定規模と同等の降雨がなければその効果を検証できないため、事業完了後 5 年以内に想定規模と同等降雨が発生した場合にその効果を検証することとする。</p> <p>【主な評価内容】</p>	
V 事業評価監視委員会の意見	
適切	
VI 対応方針	
事業継続	